

HITACHI

Reliable Solutions

2024年3月期第 1 四半期 決算説明会

2023年7月27日

 **日立建機株式会社**

執行役常務兼CFO 塩嶋 慶一郎

執行役常務兼CMO 松井 英彦

1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役常務兼CMO

松井 英彦

地域別市場環境と見通しについて、松井よりご説明致します。

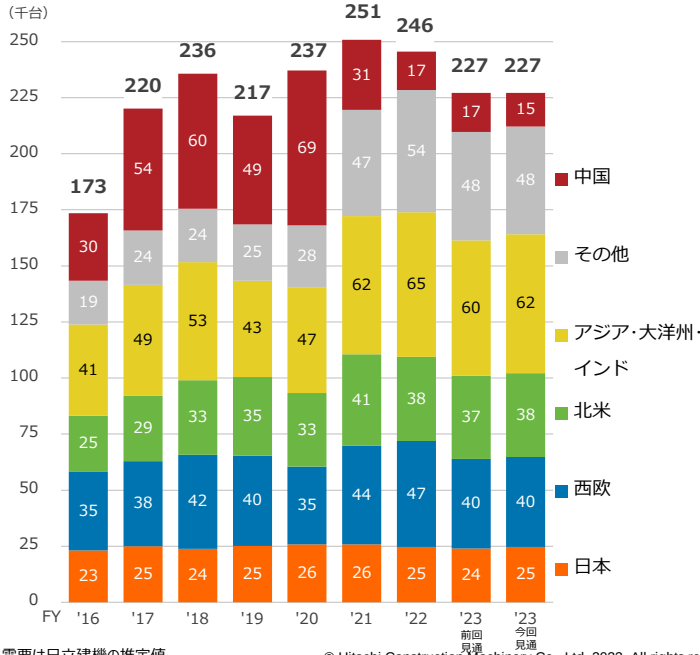
油圧ショベル世界需要推移

HITACHI

Reliable Solutions

新興国比率：23年度 55%（前年比△1%）

※新興国：中国、アジア・大洋州・インド、その他



地域別需要対前年増減

※当社推定 中国国産メーカ含まず
※複写・転用はご遠慮下さい

	'22	'23
合計	-2%	-7%
中国	-45%	-13%
ロシア・CIS・東欧	+2%	-20%
アフリカ	-9%	-17%
中東	+65%	-2%
中南米	+18%	-8%
その他	+15%	-11%
アジア	-2%	-8%
インド	+14%	±0%
オセアニア	+9%	±0%
アジア・大洋州・インド	+5%	-4%
北米	-8%	±0%
西欧	+7%	-15%
日本	-4%	±0%

* 需要は日立建機の推定値

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

3

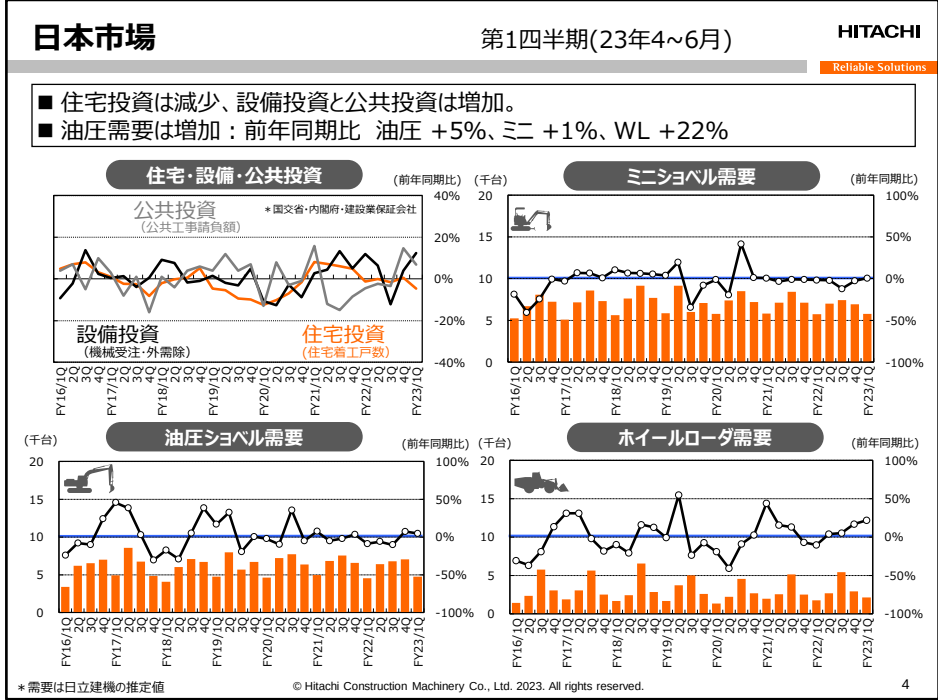
3ページ目で、油圧ショベルの世界需要見通しについてご説明申し上げます。

22年度の需要は、前回4月の需要見通しから増加し、前年比2%減の24万6千台となりました。

23年度の需要は、前回4月の見通しから、中国市場で需要減、一方、アジア・大洋州・インド、北米、日本で需要増となっております。

インフレの継続もあり、22年度に対し、日・米で横ばい、西欧とその他新興国全体で減少となり、全世界合計では、前年比7%減の22万7千台となります。

次に、各地域別に第1四半期の結果についてご説明申し上げます。



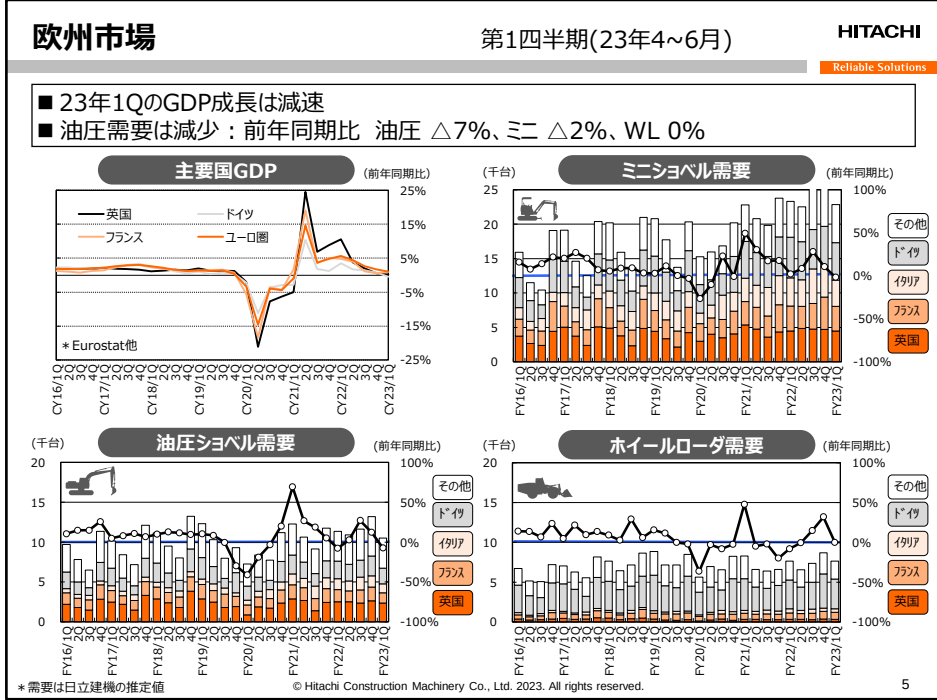
次は4ページ目。日本市場です。

左上、第1四半期の住宅投資は減少、設備投資と公共投資は前期に続き増加となりました。

左下、第1四半期の油圧ショベル需要について、公共投資は依然として高い傾向にあり、前年同期比で5%増となりました。

右上、ミニショベルは1%増。

右下、ホイールローダーは22%増となりました。



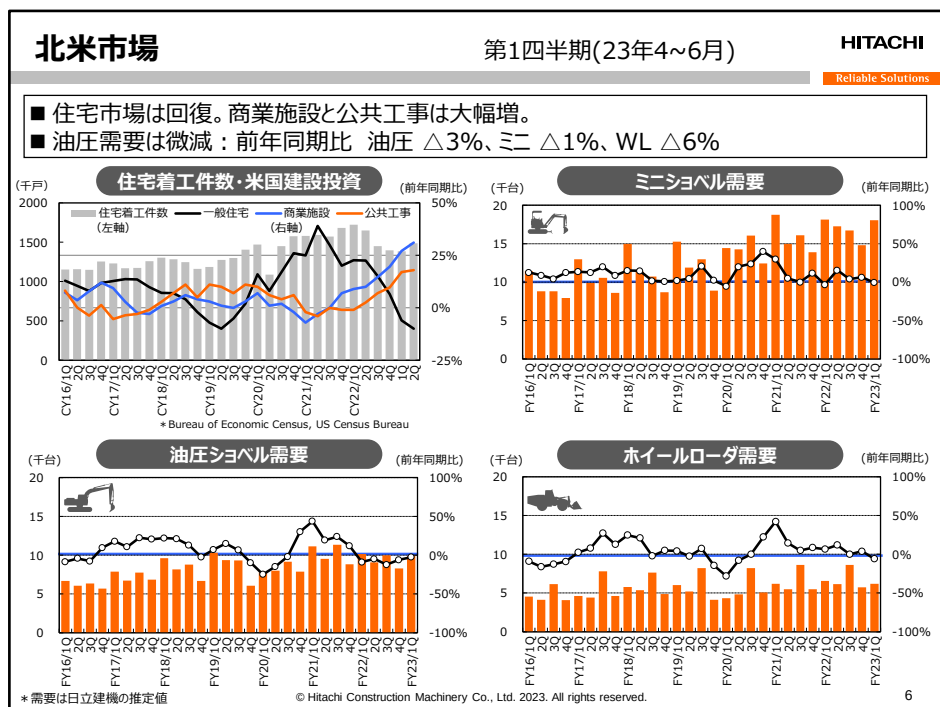
次は5ページ目。欧州市場です。

左上、GDP成長率は、ユーロ圏全体で伸びが鈍化しました。
 ドイツは前年同期比マイナス0.5%となりました。

左下、第1四半期の油圧ショベル需要は、
 市場の減速により前年同期比で7%減となりました。

右上、ミニショベルは2%減。

右下、ホイールローダーについては横這いとなりました。



次は6ページ目。北米市場です。

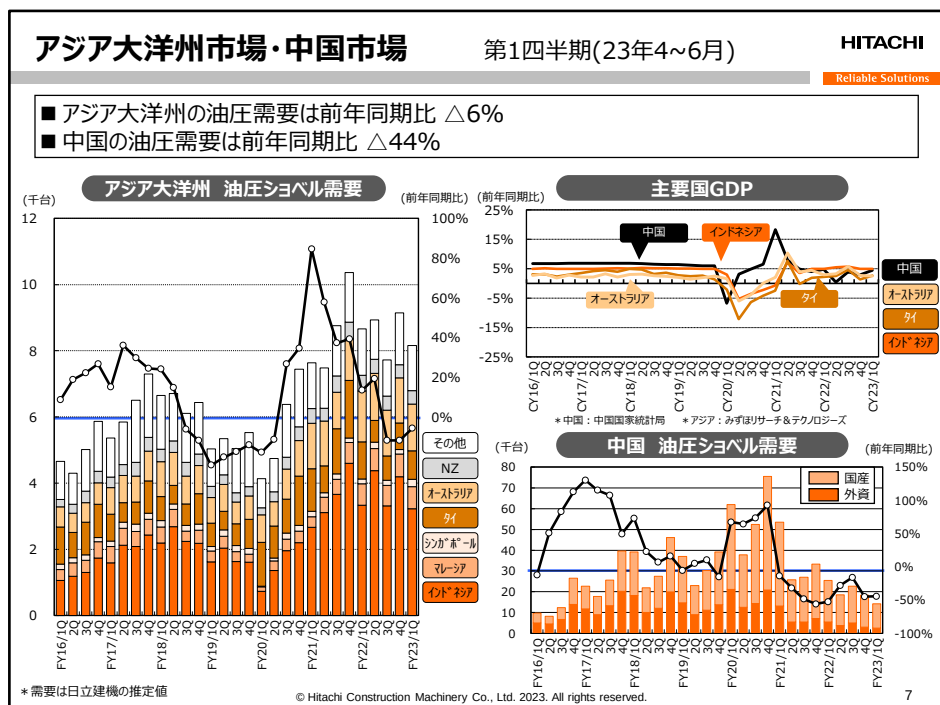
左上、住宅着工件数は増加に転じました。
 金利上昇の影響もあり一般住宅投資は前年同期比で減少しましたが、高水準の投資が継続しております。

商業施設、公共工事投資については大幅増となりました。

左下、第1四半期の油圧ショベル需要は前年同期比で3%減。

右上、ミニショベルは1%減。

右下、ホイールローダーについては6%減となりました。



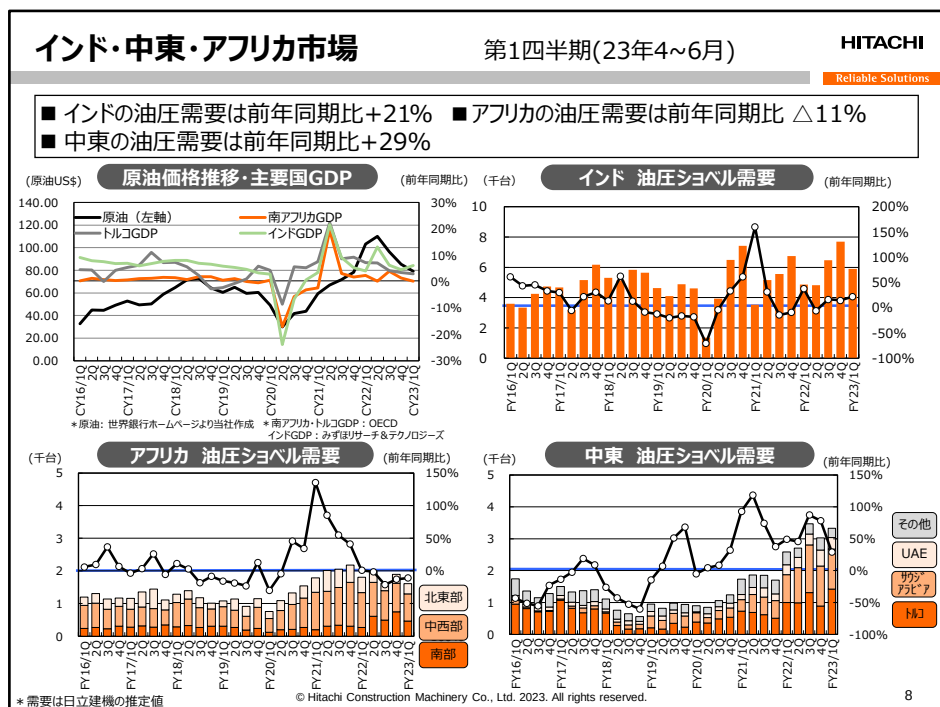
次は7ページ目。アジア大洋州、中国市場です。

右上、主要国のGDPについては、いずれも引き続き堅調です。

左側、アジア大洋州の第1四半期の油圧ショベル需要は、前年同期比で6%減となり、前期からマイナス幅が縮小いたしました。

右下、中国の油圧ショベル需要については、国産機を含めた全需要で前年同期比44%減となりました。

内訳として国産機需要は42%減、外資は54%減となりました。



次は8ページ目。インド、中東、アフリカ市場です。

左上、原油価格は下落、主要国GDPについては、南アフリカ・トルコは微増、インドは増加となりました。

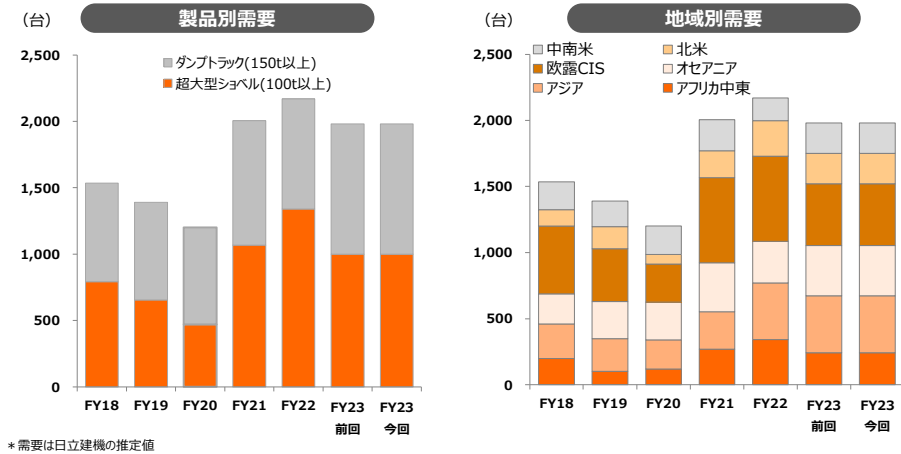
右上、インドの第1四半期の油圧ショベル需要については前年同期比で21%増となりました。

左下、アフリカの油圧ショベル需要は11%減。

右下、中東の油圧ショベル需要は29%増となりました。

- 23年度需要見通しに変更はないが、22年度実績が前回見通しから上振れしたため、前回の「前年並み」から「前年並み～△10%減」へ見直す

超大型油圧ショベル(100t以上)、ダンプトラック(150t以上)



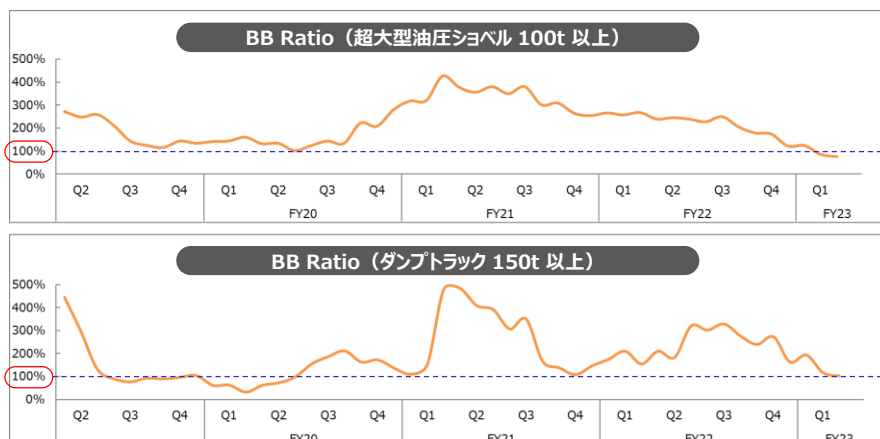
次は9ページ目、マイニング機械の需要見通しです。

23年度のマイニングの世界需要は前回と大きな変更はございませんが、22年度の超大型ショベルの実績が、100トンクラスを中心に前回見通しより増加したため、前回の「前年並み」から「前年並み～10%減少で推移する」と見直します。

補足 : BB Ratio

HITACHI

Reliable Solutions



※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額) / Billing(出荷額)
当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

10

続いて10ページ目、BBレシオです。

超大型油圧ショベルは、大手鉱山会社の23年度、24年度前半の購買が終了し、現在は24年度後半以降の新規商談を進めております。

また直近で資源価格が大きく変動したため、一部中小鉱山、コントラクタは今後の状況を様子見しており、受注時期が第2四半期へずれた案件もございました。

その結果、第1四半期では超大型ショベルのBBレシオは100%を切りましたが、現在も高確度の引合を抱えており、進行中の商談を第2四半期以降、確保してまいります。

ダンプトラックは100%以上を維持しております。

トピック(1)：遠隔操作・自動運転技術の強化について

遠隔操作・自動運転ソリューション向け油圧ショベルを開発（2023年5月）

遠隔操作・自動運転の普及のため、2023年度中の国内販売開始をめざす



CSPI-EXPO2023に出展



現場への導入が容易



遠隔でICT施工



さらなる操作支援技術を開発中

高速データ伝送技術を有するアプトポッド社と提携（2023年5月）

リアルタイム性の高いデジタルツインを構築、遠隔・自律運転システムを共同開発



現実世界

高速データ伝送



仮想空間上の
リアルタイム デジタルツイン

操作・指示



遠隔地のオフィス

HITACHI

Reliable Solutions

9

遠隔と自律運転の
技術をつくらう

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

続きまして、11ページ目からはトピックのご説明です。

まずは、遠隔操作・自動運転技術の強化についてです。

2023年5月に、遠隔操作・自動運転ソリューションに対応する油圧ショベルを開発しました。

油圧ショベルの遠隔操作や自動運転を、大規模な施工現場や災害復旧現場だけではなく、建設・土木工事のお客さまにも、ご活用いただきたいと考えております。

2023年度中に、日本市場で遠隔操作に対応する油圧ショベルの販売開始をめざしています。

また、同月、高速データ伝送技術を有する、国内スタートアップのアプトポッド社と資本業務提携を開始しました。

アプトポッド社の技術を活用して、仮想空間上に現実世界を再現するデジタルツインを構築し、建設機械の遠隔操作や自律運転のためのシステムを共同で開発してまいります。

トピック(2)：土浦に開発リソースを集約・イノベーション推進

土浦工場内「Orange Innovation Plaza」が稼働開始（2023年5月）

- 研究・開発部門を中心に、約3,000人が集結
- 多様なコミュニケーションスペースで、部門の枠を超えてコラボレーションを活性化

YouTubeで公式動画公開中

HITACHI

Reliable Solutions

9

最先端技術の集約を促す

Orange Innovation Plaza

コミュニケーションスペース

「日立建機イノベーションサミット 2023」を開催（2023年5～6月）

- 新たな価値を協創する将来のビジネスパートナーとの出会いの場として企画
- 各業界から多彩な技術を持つ40社以上が出展し、参加した従業員と活発な意見交換を実施

会場の様子

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

12

次は12ページ目、開発リソースの集約と、イノベーション推進に関する取り組みのご紹介です。

2023年5月より、マザー工場である土浦工場で、新棟「オレンジ イノベーション プラザ」が稼働開始しました。

研究・開発部門を中心に、約3,000人が一堂に会して、次世代に向けた開発に取り組んでいます。

若手社員の意見をもとに、さまざまなコミュニケーションスペースを用意し、部門を超えたコラボレーションの活性化につなげます。

また、オレンジ イノベーション プラザでは、稼働開始後すぐに5月31日・6月1日に「日立建機イノベーションサミット 2023」を開催しました。

新たな価値・ソリューションを創り上げるためには、さまざまなパートナーとの共創が必要です。

このイベントは将来のビジネスパートナーとの出会いの場として企画され、スタートアップから大企業まで、各業界から多彩な技術を持つ40社以上が出展し、参加した従業員との間で活発な意見交換が行われました。

日立建機グループは、これからも、お客さまの多様なニーズに応え、さらに期待を超えるような革新的なソリューションを提供してまいります。

12

トピック(3) : トルコ・シリア地震復興支援を継続推進

HITACHI

Reliable Solutions

日立建機中東がブレーカーと各種フィルターをトルコ政府 林業庁に寄付 (2023年7月)



- ブレーカーは地震で倒壊した建物などのがれき処理に活用、定期メンテナンスに不可欠な各種フィルターは、機械の安定稼働に貢献
- ガザフスタンの関連会社ユーラシアン マシナリー社から災害緊急事態対策庁への支援物資と合わせて総額3,550万円相当を寄付



参考写真：同メーカーのブレーカーを装着した
日立建機中東の油圧ショベル



トルコ政府 林業庁
Zekeriyya Nane 副局長 (左)
日立建機中東 荒見 学 取締役社長 (右)

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

13

13ページ目には、トルコ・シリア地震復興支援について紹介しておりますので、ご参照ください。

トピックのご紹介は以上です。

2. 2024年3月期第1四半期 決算説明

執行役常務兼CFO

塩嶋 慶一郎

続いて、CFOの塩嶋でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

私から、23年度第1四半期の決算、
並びに23年度通年業績予想の概要をご説明致します。

連結決算の概要

HITACHI

Reliable Solutions

当第1四半期は、米州を中心に堅調な売上増加に支えられ、売上収益は前年同期比20%増収、調整後営業利益は83%増益、親会社株主に帰属する四半期利益は69%増益。

(単位：億円)

(単位：億円)

		23年度 1Q	22年度 1Q	前年同期比 増減率
売上収益		3,200	2,675	20%
調整後営業利益 *1		(11.8%) 376	(7.7%) 206	83%
営業利益		(11.9%) 382	(8.1%) 218	75%
税引前四半期利益		(13.6%) 436	(10.1%) 270	62%
親会社株主に帰属する 四半期利益		(9.8%) 314	(6.9%) 186	69%
EBIT *2		(14.4%) 462	(10.5%) 281	65%
為替	アメリカドル	137.4	129.6	7.8
	ユーロ	149.5	138.1	11.4
	中国元	19.6	19.6	△0.0
	オーストラリアドル	91.8	92.6	△0.8

*1 [調整後営業利益]は、「売上収益－売上原価－販売費及び一般管理費」により計算している利益指標です。

*2 [EBIT]は、税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

15

まず、P.15『連結決算の概要』をご覧ください。

23年度第1四半期の売上収益は、為替円安影響の持上げ効果もあり、前年比20%増の3,200億円となりました。

調整後営業利益は、83%増の376億円で利益率11.8%、営業利益は382億円で利益率は11.9%でありました。

親会社株主帰属の四半期利益は、前年比69%増の314億円となりました。堅調な需要環境に対応して、高水準の生産を維持出来たこと、加えて、米州独自展開を初めマイニング・バリューチェーン事業も伸長出来たことから、第1四半期としては過去最高の業績を達成しました。

尚、第1四半期累計期間の為替レートは、前年比で米ドルが7.8円、ユーロも11.4円の円安、一方で、中国元、オーストラリアドルは僅かに円高でした。

連結地域別売上収益

HITACHI

Reliable Solutions

ロシアCIS及び中国は前年同期比減収なるも、米州における独自展開が大きく増加し、為替円安効果も加わり、連結合計では525億円の増収。

(単位：億円)

	23年度 1Q		22年度 1Q		前年同期比	
					金額	増減率
日本	442	14%	430	16%	13	3%
アジア	278	9%	233	9%	45	19%
インド	161	5%	133	5%	28	21%
オセアニア	610	19%	501	19%	109	22%
欧州	441	14%	388	15%	52	13%
北米	819	26%	539	20%	280	52%
米州	90	3%	73	3%	18	24%
中南米	909	28%	611	23%	297	49%
内：独自展開	(561)	(18%)	(372)	(14%)	(189)	(51%)
ロシアCIS	82	3%	120	4%	△ 38	△ 31%
中東	75	2%	60	2%	15	26%
アフリカ	117	4%	100	4%	17	17%
中国	85	3%	99	4%	△ 14	△ 14%
合計	3,200	100%	2,675	100%	525	20%
海外売上収益比率	86%		84%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

16

次に、P.16『連結地域別売上収益』をご覧ください。

当四半期の売上収益は前年比525億円の増収となりました。

尚、その内数として、為替円安の影響を74億円の増収と分析しております。

地域別では、ロシアCIS及び中国を除き、全地域で前年比増収となりました。

特に米州においては、注力する独自展開の伸長が大きく牽引し、前年比49%もの大幅増収となりました。

また、堅調なマイニング需要を取り込み、オセアニア、アジアでも、大幅な増収となりました。

結果、海外売上収益比率は、前年比2ポイント増の86%と、第1四半期のみならず、全四半期としても、過去最高となりました。

マイニング売上収益推移

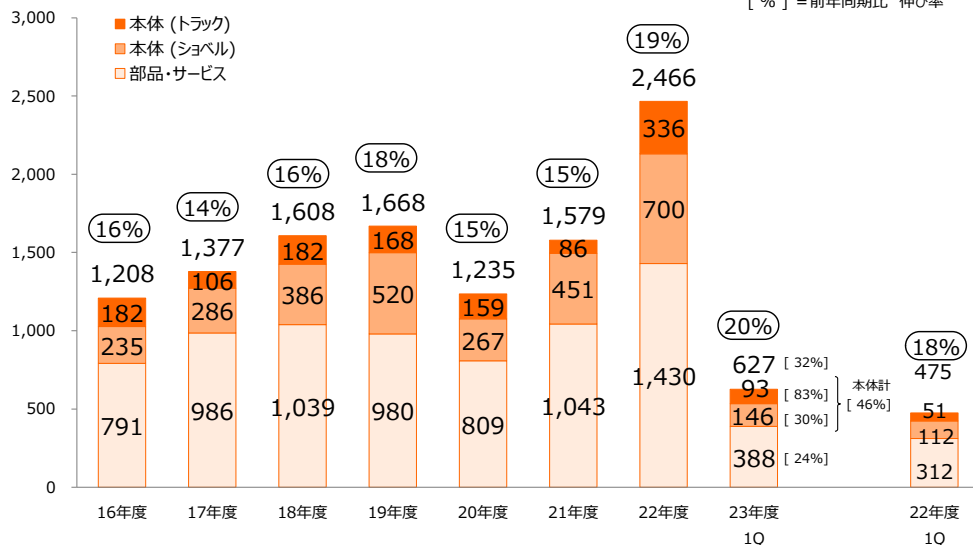
HITACHI

Reliable Solutions

本体では旺盛な需要を取り込み、前年同期比大幅増加。部品・サービスも大きく伸ばし、前年同期比32%増の627億円。

(単位：億円)

(注) (％) = 全社売上収益に占める比率
[％] = 前年同期比 伸び率



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

17

続いて、P.17『マイニング売上収益推移』をご覧ください。

当四半期のマイニング売上収益は、
右側から2本目の棒グラフに示した通り627億円と、前年比32%の増収でした。

本体売上においては、
トラック本体が主にアジア、米州の貢献で前年比83%の増収に、
ショベル本体もオセアニア、米州の貢献で30%の増収となりました。

また、マイニング部品サービスも 24%の増収となりました。

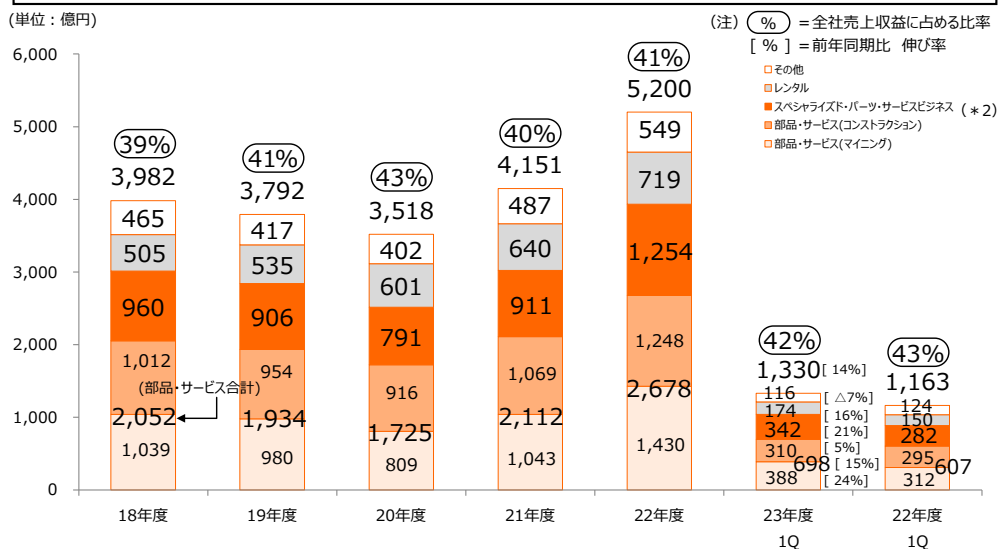
尚、連結売上収益に占めるマイニングの比率も20%と、
前年比で2ポイント増加しました。

バリューチェーン^{*1} 売上収益推移

HITACHI

Reliable Solutions

バリューチェーンは部品・サービスに加え、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス及びレンタルが伸び、
前年同期比14%増の1,330億円。



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス、レンタル等の事業合計

*2 スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

18

続いて、P.18は『バリューチェーン』の状況です。

同じく右から二番目の棒グラフをご覧ください。

当四半期のバリューチェーン売上収益は 前年比14%増の1,330億円でした。

部品サービス収益が前年比15%の増収となった他、
スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス、レンタル事業も
夫々21%、16%の増収を確保したことで、
第1四半期として 過去最高収益を記録しました。

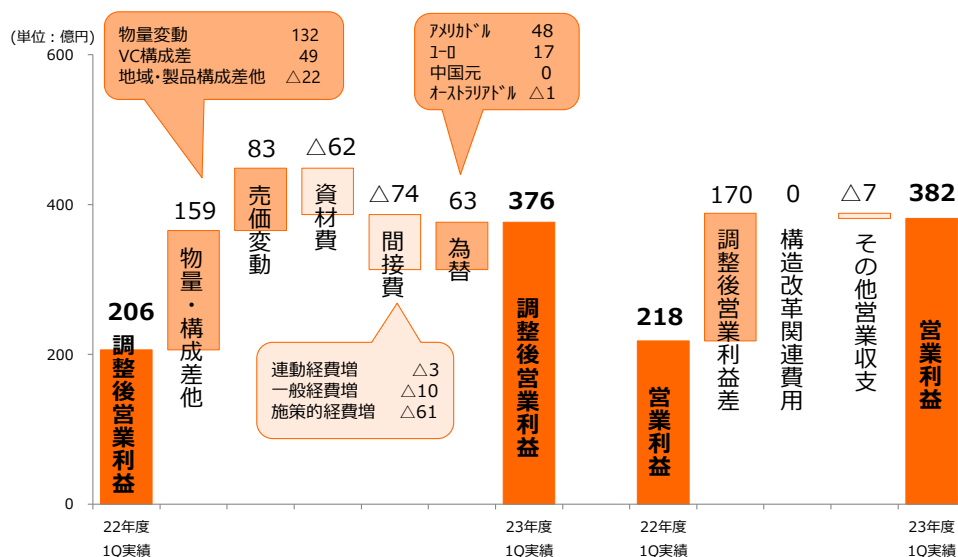
一方、連結売上収益に占めるバリューチェーンの比率は42%と、
前年比で1ポイント減少しました。

連結損益変動要因

HITACHI

Reliable Solutions

調整後営業利益は、資材費及び間接費が増加なるも、物量増、売価改善、為替影響などにより、前年同期比で170億円の増益。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

19

続いて、P.19は当四半期の『連結損益変動要因』です。

調整後営業利益が、前年比170億円の増益となった要因を御説明します。

まず左端、物量・構成差として、159億円の増益要因と分析しております。
吹出内に表記しております通り、物量増で132億、
バリューチェーン構成差で49億の増益となった一方、
海上運賃等の運搬費増22億を含む地域・製品構成差他22億の
減益要因がありました。

また、売価変動として83億円改善を実現し、
資材費62億円増加を吸収しました。

間接費は、人件費、研究開発費を主体に74億円増加しましたが、
為替円安影響63億円ではほぼ吸収し、
調整後営業利益は、前年比170億増益の376億円となりました。

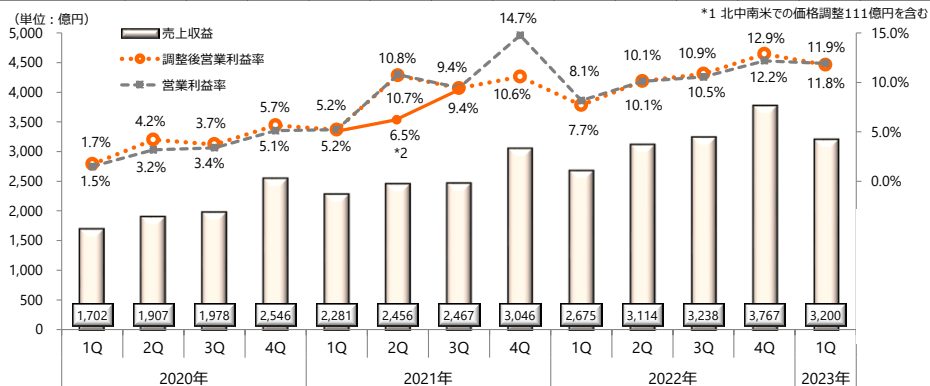
ページ右側、営業利益も調整後営業利益の増益により、
前年比163億の増益となる、382億円となりました。

要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

HITACHI

Reliable Solutions

	2020年				2021年				2022年				2023年
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q*1	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上収益	1,702	1,907	1,978	2,546	2,281	2,456	2,467	3,046	2,675	3,114	3,238	3,767	3,200
調整後営業利益	29	80	74	144	118	263	232	322	206	315	351	485	376
営業利益	25	60	67	130	119	265	233	449	218	315	342	459	382



*2 北中南米での価格調整111億円を除く

四半期別為替レート	2020年				2021年				2022年				2023年
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
アメリカドル	107.6	106.2	104.5	105.9	109.5	110.1	113.7	116.2	129.6	138.4	141.6	132.3	137.4
ユーロ	118.5	124.1	124.5	127.7	132.0	129.8	130.1	130.4	138.1	139.3	144.3	142.1	149.5
中国元	15.2	15.4	15.8	16.4	17.0	17.0	17.8	18.3	19.6	20.2	19.9	19.3	19.6
オーストラリアドル	70.7	75.9	76.3	81.8	84.3	80.9	82.9	84.0	92.6	94.5	92.9	90.6	91.8

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

20

続いて、P.20は四半期別の業績推移です。

一番右側の23年度第1四半期をご覧ください。

当四半期の売上収益3,200億円、並びに調整後営業利益376億円は、第1四半期として過去最高収益・利益となりました。

調整後営業利益率も、折れ線グラフに示した通りに、11.8%となり、こちらも前年同期7.7%と比較して、大幅な改善となりました。

要約連結財政状態計算書

HITACHI

Reliable Solutions

当四半期末は、棚卸資産の増加や、為替円安影響により総資産が前年度末比で1,083億円の増加。

(単位：億円)									
	(A) 23年1Q	(B) 22年度末	(C) 22年1Q	(A)-(B) 増減		(D) 23年1Q	(E) 22年度末	(F) 22年1Q	(D)-(E) 増減
現金及び現金同等物	1,079	1,120	1,489	△41	営業債務及びその他債務合計	2,649	2,745	2,454	△96
営業債権	2,995	3,053	2,517	△58	社債及び借入金	5,648	5,075	4,373	573
棚卸資産	5,251	4,508	4,191	743	負債の部合計	9,855	9,260	8,314	596
流動資産合計	9,816	9,089	8,617	727	(親会社所有者帰属持分比率)	(40.6%)	(40.6%)	(41.8%)	(△0.0%)
非流動資産合計	7,537	7,181	6,714	356	資本の部合計	7,497	7,010	7,017	487
資産の部合計	17,353	16,270	15,331	1,083	負債・資本の部合計	17,353	16,270	15,331	1,083
非流動資産を含めた営業債権	3,417	3,446	2,954	△29					
棚卸資産 内訳									
本体	1,798	1,425	1,234	373	有利子負債計	(32.5%) 5,648	(31.2%) 5,075	(28.5%) 4,373	(1.4%) 573
部品	1,700	1,586	1,414	114	現金及び現金同等物	1,079	1,120	1,489	△41
その他	1,754	1,496	1,543	257	ネット有利子	(26.3%)	(24.3%)	(18.8%)	(2.0%)
棚卸資産計	5,251	4,508	4,191	743	負債	4,569	3,955	2,884	614
手持日数 (分母は売上収益)				(単位：日)	ネットD/Eレシオ	0.65	0.60	0.45	0.05
営業債権 (非流動含む)	94	98	101	△4					
棚卸資産	144	129	144	15					
営業債務	44	47	51	△3					
正味運転資金	189	176	190	13					

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

21

続いて、P.21は23年6月末の連結貸借対照表です。

前年度末23年3月末比較では、営業債権を29億円縮減、
棚卸資産は売上物量増への対応により、
新車、並びに半製品在庫を主体に 743億円の増加となりました。

尚、為替円安影響による増加相当を夫々、150億、及び257億と分析しております。

また、非流動資産においても業容拡大のための建物、機械設備、
及びレンタル資産への投資に為替換算影響も加わり、356億増加したことから、
総資産は1兆7,353億円と、前年度末より1,083億増加となりました。

手持日数では、営業債権を94日と 前年度末より4日短縮したものの、
棚卸資産は15日延伸の144日となりました。

この結果、正味運転資金手持日数は前年度末よりも13日延伸した189日となりました。

右側の有利子負債は、前年度末より573億増加、
ネット有利子負債も614億増加の4,569億円となりました。

資本合計は7,497億円で、親会社所有者帰属持分比率は40.6%、
ネットD/Eレシオは0.65でした。

連結キャッシュ・フロー

HITACHI

Reliable Solutions

営業キャッシュ・フローは運転資本の悪化等により125億円のネガティブとなり、投資キャッシュ・フローの支出と合わせて、フリーキャッシュ・フローは288億円のネガティブ。

(単位：億円)

	23年度 1 Q		22年度 1 Q		前年同期比 増減額	
四半期利益		336		195		140
減価償却費	501	166	344	149	157	17
売掛金及び受取手形の増減		186		428		△ 241
棚卸資産の増減	△ 349	△ 463	140	△ 258	△ 489	△ 205
買掛金及び支払手形の増減		△ 72		△ 29		△ 43
その他		△ 277		△ 383		105
営業活動に関するキャッシュ・フロー		△ 125		102		△ 227
営業キャッシュ・フロー・マージン率		△3.9%		3.8%		△7.7%
投資活動に関するキャッシュ・フロー		△ 163		△ 106		△ 57
フリー・キャッシュ・フロー		△ 288		△ 4		△ 284
財務活動に関するキャッシュ・フロー		209		466		△ 257

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

22

続いて、P.22は連結キャッシュフローです。

当四半期の営業キャッシュフローは125億円のネガティブとなりました。

FFOは前年比157億増加の501億を確保した一方、
棚卸資産の増加を主体に運転資本が349億膨れたことが起因です。

投資キャッシュフローも163億円の支出と、前年比でも57億増加したことから、
フリーキャッシュフローは288億円のネガティブとなりました。

要約連結損益計算書(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

23年度連結損益計算書は、前回4月に公表した業績見通しを据え置き、売上収益は前年比2%の増収、調整後営業利益は3%の増益、親会社株主に帰属する当期利益は17%の増益を見込む。

注、< >内は23年4月公表値

(単位:億円)

	23年度 予想		22年度 実績	前年比	
				金額	増減率
売上収益	<13,000>	13,000	12,795	205	2%
調整後営業利益	<10.8%>	(10.8%)	(10.6%)	(0.2%)	
	<1,400>	1,400	1,357	43	3%
営業利益	<10.5%>	(10.5%)	(10.4%)	(0.0%)	
	<1,360>	1,360	1,333	27	2%
税引前当期利益	<10.1%>	(10.1%)	(8.8%)	(1.3%)	
	<1,310>	1,310	1,127	183	16%
親会社株主に帰属する当期利益	<6.3%>	(6.3%)	(5.5%)	(0.8%)	
	<820>	820	702	118	17%
EBIT	<1,372>	1,372	1,190	182	
通 貨	1Q 実績	2Q-4Q 予想	年度 予想	22年度 実績	前年比
アメリカドル	137.4	130.0	131.7	135.4	△ 3.8
ユーロ	149.5	130.0	133.8	141.0	△ 7.3
中国元	19.6	18.1	18.4	19.7	△ 1.4
オーストラリアドル	91.8	84.0	86.1	92.7	△ 6.6
1株当たり配当金 *1	未定			110円	-

*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%~40%を目安に安定的かつ継続的に実施することを基本として株主利益の最大化を図ります。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

23

続いて、今回の23年度業績予想をご説明します。

スライドP.23『要約連結損益計算書(予想)』をご覧ください。

先程に執行役常務CMOの松井が説明した今年度の需要環境、並びに当四半期3か月の実績を踏まえ、現時点の今年度業績予想を、前回4月時予想 同額に据え置きます。

具体的には本スライドの通り、売上収益1兆3,000億円、調整後営業利益1,400億円、親会社株主に帰属する当期利益820億円とします。調整後営業利益率は10.8%を見込みます。

尚、第2四半期以降の予想為替レートについては、米ドル：130円、ユーロ：130円、中国元：18.1円、オーストラリアドル：84円 いずれも前回同レートを据え置きました。

P.28に参考資料1.として、第2四半期以降の売上収益と調整後営業利益に影響する為替感応度も掲載しましたので、ご参考願います。

。

要約地域別売上収益(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

今年度連結売上収益は、為替円高影響があるものの、米州における独自展開の伸長を見込み、前年比205億円の増収を見込む。

(単位：億円)

		23年度 予想		22年度 実績		前年比	
		金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本		2,296	18%	2,240	18%	57	3%
アジア		1,263	10%	1,227	10%	36	3%
インド		669	5%	731	6%	△62	△8%
オセアニア		2,200	17%	2,254	18%	△54	△2%
欧州		1,586	12%	1,649	13%	△62	△4%
米州	北米	3,093	24%	2,741	21%	351	13%
	中南米	328	3%	383	3%	△55	△14%
		3,421	26%	3,125	24%	296	9%
内:独自展開		(2,112)	(16%)	(1,820)	(14%)	(292)	(16%)
ロシアCIS		304	2%	374	3%	△69	△19%
中東		279	2%	250	2%	29	12%
アフリカ		660	5%	547	4%	113	21%
中国		322	2%	400	3%	△78	△20%
合計		13,000	100%	12,795	100%	205	2%
海外売上収益比率		82%		82%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

24

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

24

続いて、P. 24は『地域別売上収益の予想』です。

当年度売上収益については、前年比205億円、2%増収の1兆3,000億円の4月時見通しを据え置きます。

本見通しには、前提為替レートにより、612億円の減収影響を含んでいます。

インド、オセアニア、欧州等の地域では円高影響にて減収を見込む一方、北米、アジア、アフリカ、日本で増収を見込みます。

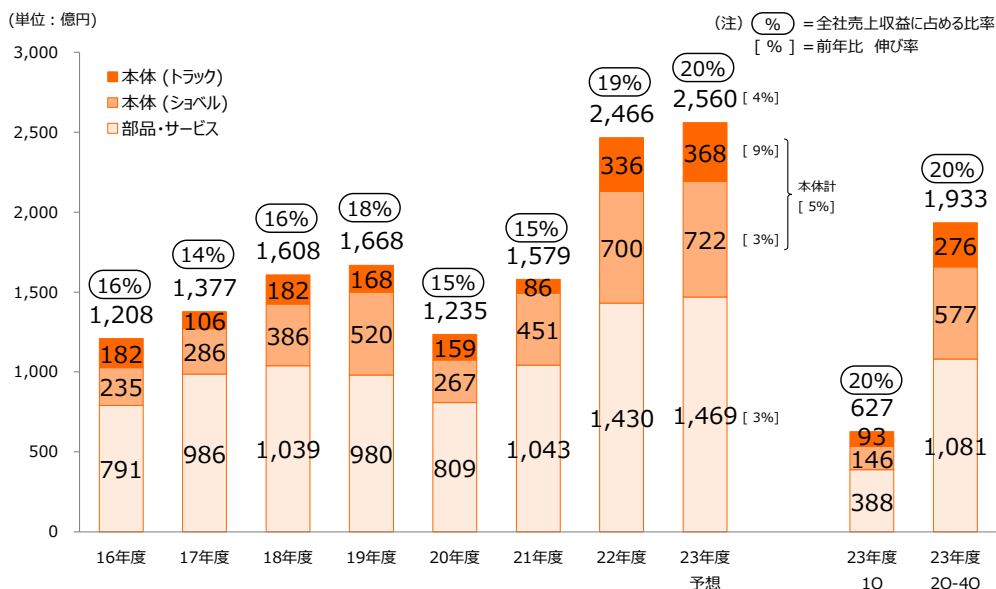
尚、海外売上高比率は、前年と同じ、82%を見込みます。

マイニング売上収益推移(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

今年度マイニング売上収益は、前年比4%増収の2,560億円を見込む。



25

次に、P.25はマイニング売上収益予想です。

本年度のマイニング売上は、前年比4%増収の2,560億円を見込み、過去最高収益の更新を目指します。

尚、前提為替レートにより、150億の減収影響を含んでいます。

機械本体はトラックとショベル合計で、前年比5%の増収を見込む他、部品サービスも同3%増収の予想です。

売上構成比は、前年比1%増の20%を見込みます。

尚、P.29 に参考資料 2. として地域別の『マイニング売上収益内訳』を掲載していますので、ご参考願います。

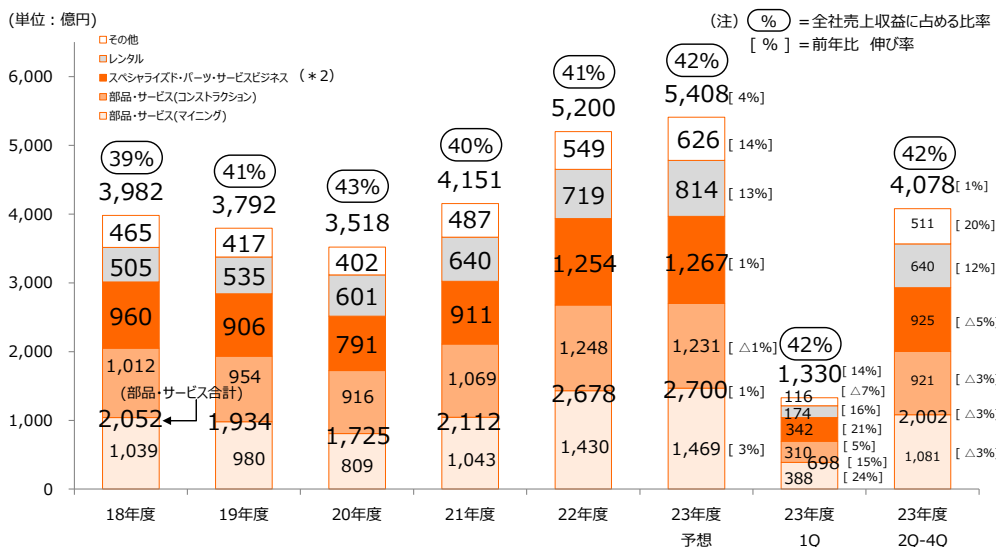
アジア・大洋州も微増に転じた他、米州において前年比で62億円の増収を見込みます。

バリューチェーン*1 売上収益推移(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

バリューチェーンは前年比で4%増収の5,408億円を見込む。



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス、レンタル等の事業合計

*2 スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

26

続いて、P.26は『バリューチェーン売上収益推移（予想）』です。

本年度のバリューチェーン売上収益は、前年比4%増収の5,408億円を見込み、同じく過去最高収益の更新を目指します。

尚、前提為替レートにより245億円の減収影響を含んでいます。

個々には部品サービスを、コンストラクション、マイニング向け合計で前年比1%増収の2,700億円、レンタルにおいても同13%増の814億を夫々見込みます。

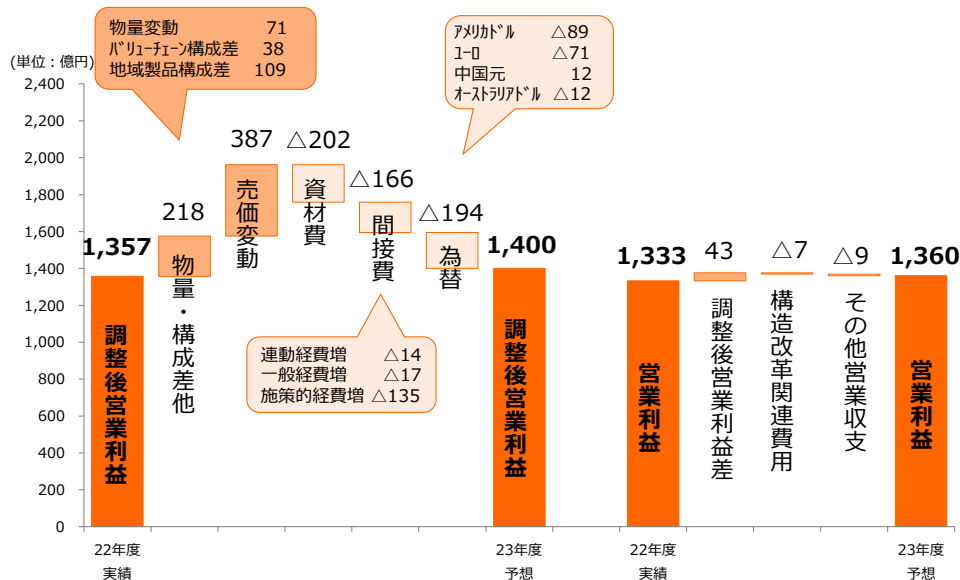
売上構成比は、前年比1%増の42%を見込みます。

連結損益変動要因(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

今年度の調整後営業利益は、資材費アップ、間接費増及び円高影響あるも、物量構成差、売価アップにより前年比43億円の増益を見込む。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2023. All rights reserved.

27

ご説明の最後となります、P.27『連結損益変動要因(予想)』をご覧ください。

本年度調整後営業利益が前年比で43億の増益を見込む1,400億円となる要因をご説明します。

まず、物量・構成差として218億の増益を織込みます。
内訳として、物量変動で71億、バリューチェーン構成差で38億、
加えて、地域・製品構成差等で109億と夫々、増益を見込みます。

また、売価変動387億の改善により、資材費202億増の吸収を織込みます。

間接費で166億増、並びに為替円高影響による減益効果194億を
織込むものの、調整後営業利益は前年比43億円の増益を見込みます。

ページ右側営業利益でも、調整後営業利益の増益により、
前年比で27億の増益となる1,360億円を予想します。

P.28ページ以降に参考資料を3枚付けておりますのでご参照下さい。

以上、ご説明を終わります。有難うございました。

参考資料 1：為替レート及び為替感応度

HITACHI

Reliable Solutions

23年度予想為替レートは、前回から変更せず。

為替レート及び為替感応度 (単位:億円)

通貨	為替レート				感応度(2Q-4Q)		
	23年度			22年度 実績	基 準	売上収益	調整後 営業利益
	1Q 実績	2Q-4Q 予想	年度 予想				
アメリカドル	137.4	130.0	131.7	135.4	1円円安になった場合	26	19
ユーロ	149.5	130.0	133.8	141.0	1円円安になった場合	9	7
中国元	19.6	18.1	18.4	19.7	0.1円円安になった場合	2	△1
オーストラリアドル	91.8	84.0	86.1	92.7	1円円安になった場合	19	3

参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable Solutions

(金額 : 億円)

		23年度予想			22年度実績			差額		
		1Q	2-4Q累	年度	1Q	2-4Q累	年度	1Q	2-4Q累	年度
米州	ショベル	79	266	345	58	269	327	21	△ 3	18
	トラック	24	61	85	9	32	41	15	28	44
	計	103	327	430	67	302	368	37	25	62
欧阿中東	ショベル	73	299	373	80	277	357	△ 7	22	16
	トラック	51	218	269	47	223	270	4	△ 5	△ 1
	計	125	518	642	127	501	627	△ 2	17	15
アジア・大洋州	ショベル	259	766	1,024	183	796	978	76	△ 30	46
	トラック	134	291	425	93	375	468	41	△ 85	△ 43
	計	393	1,057	1,449	275	1,171	1,446	117	△ 114	3
中国	ショベル	3	14	16	2	11	13	1	3	4
	トラック	0	0	0	0	1	1	0	△ 1	△ 1
	計	3	14	16	2	12	14	1	2	3
日本	ショベル	3	15	18	4	6	10	△ 1	9	8
	トラック	0	4	4	0	0	0	0	4	4
	計	3	19	22	4	6	11	△ 1	12	11
合計	ショベル	417	1,360	1,777	326	1,359	1,685	91	1	92
	トラック	209	574	783	148	632	781	61	△ 59	2
	計	627	1,933	2,560	475	1,991	2,466	152	△ 58	94

参考資料 3：セグメント情報

HITACHI

Reliable Solutions

下記スペシャライズド・パーツ・サービスビジネスの調整後営業利益は、P P A (資産再評価)償却費として
23年度第1四半期実績には3億円、23年度予想にも11億円をそれぞれ含む。

(単位：億円)

23年度 1Q	報告セグメント		調整額 *2	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	スペシャライズド・パーツ・ サービスビジネス*1		
売上収益	2,858	355	△ 13	3,200
調整後営業利益	11.8% 339	10.6% 38	-	11.8% 376

(単位：億円)

23年度 予想	報告セグメント		調整額 *2	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	スペシャライズド・パーツ・ サービスビジネス*1		
売上収益	11,733	1,280	△ 13	13,000
調整後営業利益	10.7% 1,258	11.1% 142	-	10.8% 1,400

*1 2023年度より、「ソリューションビジネス」としていたセグメント名称を「スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス」に変更しました。
セグメント名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

*2 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに帰属しない全社に係る金額です。

日立建機グループでは、持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標のうち、
10項目の重点目標を設定しています。

当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

【商標注記】

「AERIAL ANGLE」「ConSite」「Solution Linkage」「ZCORE」は、日立建機株式会社の登録商標です。

2023年7月27日

 日立建機株式会社